



## ● 忍者みたいなスナガニ ●

スナガニは砂と同じ色をしている上に、すばやくてなかなかつかまえることができません。またスナガニは、夜に穴の外へ出ることが多いのですが、体の表面の色素がまとまり、透きとおっているようになり、電灯で照らすと、カニの陰だけがゆらゆら動き、本体がなかなか分かりにくいので、ユウレイガニとも呼ばれています。

## ● スナガニをつかまえる ●

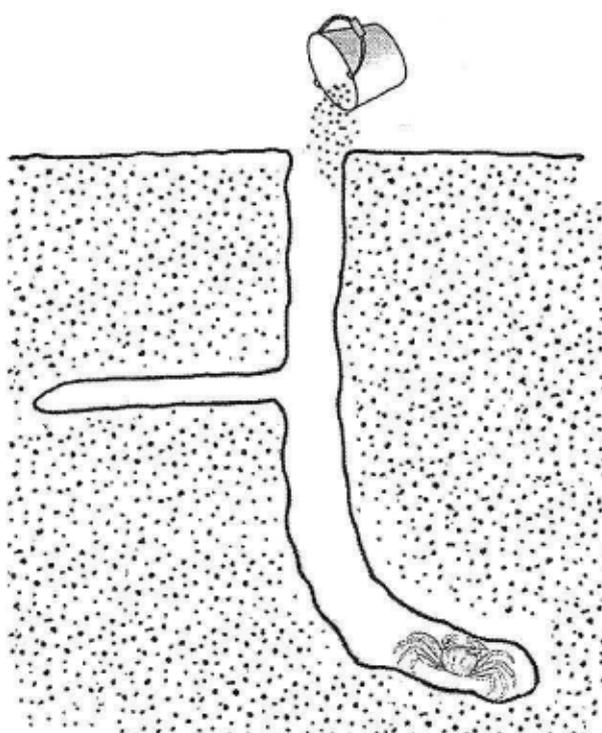
スナガニをつかまえるには外を歩いているときにつかまえるほか、穴に潜んでいるスナガニを、穴を掘ってとる方法があります。スナガニの巣はやや湿った砂でできていますので、表面の乾いたサラサラの砂を中に落とすと穴にそって乾いた砂がたまり、穴を確認でき、居場所をつきとめることができます。

でも、水分やエサなど、スナガニを飼うのは難しいので、観察したあとは、できるだけ元の場所にのがしてあげましょう。

スナガニがいるあたりには、他にハマダンゴムシ、ハマベバエ、イソジム

カデ、イソカニムシ、イソミミズなどの砂浜独特の生きものが見られます。ほかにどんな生きものがいるか調べてみましょう。

富山市科学文化センターの自然史展示室にある海のコーナーにもスナガニとその巣穴が展示してあります。砂浜のほかの生きものと比べてみましょう。



スナガニの巣

(布村 昇)



富山市科学文化センター <http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 tel:076-491-2123 fax:076-421-5950

2002.7.5発行